

大阪薬科大学報



大阪薬科大学広報委員会

2006年(平成18年)1月20日発行

目次

理事長退任の挨拶	前理事長	川島 康生	1
理事長就任の挨拶	理事長	矢内原 千鶴子	2
学長退任の挨拶	前学長	矢内原 千鶴子	3
学長就任にあたって	学長	栗原 拓史	4
元校主、秋山卓爾先生のご親族様の本学ご訪問	資料室運営委員会委員	春沢 信哉	5
「個人情報保護に関する法律」施行に伴う対応について	事務局長	肥塚 敏彰	6
平成17年度市民講座を終えて	市民講座委員長	馬場 きみ江	7
平成17年度公開教育講座を終えて	公開教育講座委員長	玄番 宗一	8
平成17年度前期授業・実習評価アンケート	教務部長	松村 靖夫	9
平成17年度進路・就職状況(中間報告)	就職部長	田中 一彦	12
第40回大薬祭「笑顔」を終えて	学生部長	木村 捷二郎	13
特待奨学生表彰(学部・大学院)	学生部長	木村 捷二郎	15
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員	児玉 陽子	16
教務課だより			17
学生課だより			19
入試・広報課だより			21
図書課だより			22
総務課だより			23
就職課だより			25
経理課だより			26
薬用植物の紹介	薬用植物園長	馬場 きみ江	

創立百周年記念植樹のクスノキ(大学会館南側) P.14に関連記事掲載

理事長退任の挨拶

前理事長 川島 康生



3年半前に理事長に就任し、まだ新しい学舎に生気に満ちた若い学生諸君がやって来る様を見ると心の躍る思いがしたのを今でも鮮明に記憶しています。就任当初は本学にそれほど大きな問題があるとは思っておりませんでした。流産しかけていた創立百周年記念事業を百年に一度の折角の機会だからと言って実施を決定したこともあり、また、附属薬局にもいろいろなことがあって、問題がないわけではありませんでした。しかし、それら一つずつ改善し、創立百周年記念事業も当初計画した募金目標を達成するには至りませんでした。懸案であった本学独自の奨学金制度や国際交流基金なども作ることができ、その他資料室の整備などいくつかの事業を達成できたのは、学内を始めとする多くの方々のご支援、ご協力によるものであり、大変嬉しく思っています。

ところが理事長の最初の任期を終えようとする頃からいろいろと気がかりなことが起きてきました。一つは少子化という我が国の大学全てに関係する問題ですが、その一方で不景気の中にあっても医薬分業の普及に伴って薬剤師には引く手あまたの需要があり、これに目を付けた人達が新しい薬科大学を設立したり、新しい薬学部を開設するなどといったことがあって、薬学全体としての入学者定員が数年で倍増するということが起こりました。このことは学生の募集、そしてその卒業生の行き先などを考えると大学経営の上でも大変な問題であると思われる。それに加えてついに薬学教育6年制が決定されました。薬学の修業年限延長問題は私が理事長に就任した頃はそれほど現実味を帯びてはいませんでした。私自身は何故一気に2年も延長しなければならないのかと疑問を抱いており、そのように発言もしてきましたが、これは少数意見で思ったよりも早く6年制への移行が決定されたように思います。

学問の修学期間は長い程内容の充実した成果が得られるので、そのこと自体に反対するわけではありませんが、それに関連して余りにも多くの課題があると思います。特に大きな問題は6年間の教育に必要な学費です。この問題は直ちに志願者の数に跳ね返り、学生の質ということにも跳ね返る問題で、既に来年度の志願者数は減少するであろうことがいろいろなデータから明らかになりつつあります。このように6年制の問題は大学経営のうえでも大変な問題ですが更に大きな問題は教育の内容、特に臨床の教育をどのように実施するか、6年制が主流となった時に併設する4年制をどうするかといったことです。

これらの点に関してはいろいろの意見があり、準備も整えられつつありますが、私自身は薬学教育の経験がありませんのでどのような方向に進むべきかについて確固

たる信念を持つことが出来ないのが誠に歯がゆいところでした。

そしてこういった問題が具体的になるにつれ私自身に理解しがたい問題も多々出てまいりました。このような状態のまま理事長という席を汚し続けることにより、本学の方向性に間違いがあってはならないと思うようになってきました。このような問題がなければ引き続いて理事長の職を務めさせていただくことに吝かではなかったのですが、万一本学の理念、本学の進むべき方向について、理事長の不明の故に道を間違えるようなことがあっては本学に在学する学生諸君は勿論のこと、本学に勤めておられる職員の皆様にも多大のご迷惑をおかけするものと考え、私よりも更に理事長たるにふさわしい人材がおられるならば、その方にバトンタッチをさせていただきたいと思うようになりました。

幸い過去6年に亘りいろいろな困難を乗り越えて大阪薬科大学を導いてこられた矢内原学長が平成17年12月15日をもって任期満了となることが分かっていたので、この際、理事長を引き継いでいただき、本学にとって最も重要な今後の3年間の舵取りをお願いしたわけですが、いうまでもなく矢内原学長は薬学教育のプロであり、またご自身大阪大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院の薬剤部長として臨床の場も十分経験しておられます。またとない人材であることは誰の目にも明らかであると考え、矢内原先生を理事会において推薦させていただきました。敵前逃亡のようで、忸怩たる思いもいたしますが、私が任期を終えてからでは大学の規定によって矢内原先生にお願いすることはできませんし、また許されたとしても諸般の状況を見るとそれでは遅きに失すと思った次第です。

顧みれば本学は道修町に産声を上げて以来、実に100年の歴史を持つ私立薬科大学の中の名門であります。しかしながら歴史が古いことは現在の水準が高いということと同じではありません。日々研鑽し改革を重ねていかなければ新しい時代の薬学教育、薬学研究の頂点に立つことはできません。このたび新しく着任された栗原学長もかねてより学長として大学をリードしていきたいとの希望をお持ちであったと聞いております。矢内原新理事長と栗原新学長のお二人のご指導によって、大阪薬科大学は今後ますます発展するものと信じており、本学にかかわる職員の全ての方々がこのお二人と力を合わせてその発展に尽くされることを信じ、そしてそれをお願いして退任の挨拶とさせていただきます。

任期途中での辞任をご承認いただいたことに重ねて心から御礼を申し上げて擲筆いたします。

理事長就任の挨拶

理事長 矢内原 千鶴子



平成14年6月、国立循環器病センター名誉総長川島康生先生には、医学界、特に心臓外科領域において基礎・臨床教育研究に数多くの業績を残され、国内外にご高名な学会のリーダーとして後輩の育成に殊の外にご多用であられたにも拘わらず、学校法人大阪薬科大学理事長の職をお引き受けいただき、爾来本学のために並々ならぬご盡力を賜りました。その理事長としてのご功績に対しては、既に本学関係者の間で繰り返し感謝の言葉が述べられてきたところであります。中でも大阪薬科大学創立百周年記念事業の数々の素晴らしい成功は特筆すべきものであり、先生のお力なくしては到底達し得られなかったであらう。川島康生先生が大阪薬科大学に残されました数多くのご功績に対しここに改めて衷心より厚く御礼申し上げます。

平成17年12月、私の学長としての任期2期6年が満了いたしました。川島理事長のご推薦により、今回理事会において新理事長としてご指名いただきました。その重責は私自身が理解し自覚しているところを遙かに越えるものでありましょう。いずれの薬科大学も未曾有の非常時とも言える重大な時期にあり、大阪薬科大学にとっても平成18年度に始まる薬学教育新制度への対応の成否は将来の浮沈に拘わる一大事であります。輝かしい本学100年の伝統と歴史を更なる発展と隆盛に繋げるためにも、学長としての6年の経験をもとにお役に立つことができたと決心いたしました。現在、大阪薬科大学の法人が解決しなければならない課題は決して少なくありません。その解決に向けての努力は大学全構成員のその立場、立場での働きが正しく結集されてこそ真の実を結ぶものであると言えます。事を運ぶに拙速に過ぎその手続きを誤ることが如何に大きな禍根を残すかは本学における貴重な経験であり教訓となっています。しかし、一方では、無為に時を費やすには山積する課題は多きに過ぎることも事実であります。法人としての課題や問題の一つ一つを時を惜しみつつ確実に解決していくべく努力したいと思っております。

本学法人の成り立ちからすれば法人理事会の責任の下で、経済的、組織的に運営される大阪薬科大学のあり方への全構成員の理解を正し深めることが重要であると考えます。従来むしろ無関心に過ぎた法人の果たすべき真の役割への理解を深めるためにも可能な限りの情報公開が必要であり、それがまた理事会・評議員会がその決断と決断への関わりの重要性和、それに対する限りなく重い責任を明確に自覚することにも繋がるものと考えます。法人理事長の責任が問われる第一は大学の経済的運営(経営)でありましょう。平成16年度に受けた大学の第三者評価における本学法人の財務への評価は必ずしも最高ではありませんでしたが、改善の方向性が明らかであるとの評価でありました。平成8年の大学全面移転とい

う大事業の直後で避けることのできない結果であります。唯、薬学教育6年制課程の導入に伴う本学入学定員増、ならびに主として医療系薬学教育充実に対応するための施設・設備の拡充、学生の福利・厚生施設の充実などに要する資金の必要性から来る財政への影響は避けがたいところであります。本学経営の基本は言うまでもなく学生納付金によるところであり、他に国からの補助金を加えて主要な財源となっています。従って少子化と新設薬科大学・学部急増による影響が憂慮される時に本学が優秀な入学志願者を常に十分確保できる大学として存続できるか否かが今後の財政基盤の安定を決するところとなるでしょう。法人としては、担当理事・監事、事務局担当職員の堅実な財務の運びを軸に、今後とも財政基盤の強化と安定に努力しなければならないと考えます。

学校法人大阪薬科大学が設置する大阪薬科大学の構成は施設・設備のみではなく、教職員という人的要素とそれによって行われる教育・研究から成り立っていることは言うまでもありません。教職員組織と教育・研究活動にかかわる問題の解決は新しい本学の発展に欠くことのできない最重要課題であり、法人はそのための環境整備に果たす役割を自覚し遂行しなければならない立場にあります。薬学教育新制度導入に伴う新しい設置基準への対応の一つとして教員組織の充実は十分とは言えないまでもその方向に進んできておりますが、大学の機能を支える両輪のもう一方ともいえる本学事務局が、教学の単なる補助機能分担組織ではなくむしろ主導的な役割を果たしている部分が多いのは明らかで、その実態に即した組織と機能の強化充実が必須であり、この点に関して法人としてなすべきことは多いと考えております。

学校法人大阪薬科大学附属薬局は平成11年11月1日、全国でもほとんど例を見ない薬科大学附属として開設され現在に至っております。前理事長川島先生のご盡力と、法人理事、教員代表からなる運営委員会のご努力によりあるべき姿へと進み始めました。理事長として附属薬局開設者の任に当たる責任は重く、経営上、教育上山積する問題の解決に力を注ぎつつ、運営委員会、新薬局長、実務実習担当教員と共に特に経営・業務運営の面から本附属薬局を大学施設として本来あるべき機能が十分発揮できるように努力しなければならないと考えております。

学校法人大阪薬科大学が当面している主要な問題について考えるところを述べさせていただきました。新しい薬学教育の夜明けに向かい、大阪薬科大学の全ての構成員と共に一丸となって新たな本学100年への礎を確固たるものにすべく努力いたしてまいります。何卒よろしくご指導、ご協力、ご支援の程お願い申し上げます。

学長退任の挨拶

前学長 矢内原 千鶴子

本部棟3階図書館の窓一杯に広がるパノラマが秋の日差しに輝きひとさわ美しく、一年中でも最も素晴らしい眺望を楽しめる毎日です。1999年、このような美しい秋も過ぎ年末も近い12月16日が私の本学への奉職の最初の日でありました。20世紀最後の年を迎え、激動の世紀に別れを告げる感慨より、新しい世紀が我々に何か素晴らしいものをもたらしてくれるとの大きな期待と高揚感が声高に喧伝され世間を騒がしくしていた頃でありました。そうした中で、都会の喧騒を離れ豊かな自然に恵まれた環境の中の新高槻キャンパスは、重厚な薬学教育の伝統を育み、数多くの先輩の熱い想いに満ちる松原学舎の後を引き継ぎ、21世紀の幕開けに合わせた大阪薬科大学の新しい100年への門出にまさにふさわしいものでありました。やがて新学歌も生まれました。その響きは、松原での伝統に息づく雄壮な旧学歌から、清々しい旋律に新時代への希望の躍動を感じさせるものになりました。こうして2000年の年明けと共に始まり、その後6年と続いた日々を振り返ってみれば、この当初の頃の私は学長が担う重責を十分認識していたのかと今にして恥ずかしく顔に汗する思いで一杯であります。100年に及ぶ大阪薬科大学の歴史の中ではその流れのほんの一

部を分担させていただいたに過ぎず、その貴重な歴史と伝統を損なうことなく一方では将来の一層の発展を確かなものとする基盤を固めることが私の責任と心得てまいりました。その6年を終えようとしている今、思いは唯々大学とその関係の全ての方々への感謝のみであります。2000日を超える日々が緊張をはらみながら充実したものであったことを振り返り、そうした日々を生きることが出来る機会を与えてくださった全ての人々に心より御礼申し上げます。来年度より始まる薬学教育新制度については、本学のみならずいずれの薬系大学もその準備が緒についたばかりであります。これからがその真の薬学教育の成否を決する正念場であることは言うまでもありません。個別の問題に対する近視眼的な対応ではなく、また他を右顧左眄することなく、少なくとも大阪薬科大学は将来の大きな発展を期して確固としたその礎を築き、満を持して独自の道を歩まれんことを願って止みません。

改めて、この6年を変わらぬ誠意を持ってご支援、ご助力、ご協力いただきました大阪薬科大学の皆様方ならびに関係の方々、言葉では十分表せないもどかしさを感じつつ、心より感謝申し上げます。



学長就任にあたって

学長 栗原 拓史



この度、矢内原千鶴子前学長の後任として、平成17年12月16日から学長に就任することになりました。創立100年の歴史と伝統を誇る本学の学長を拝命致しましたことは、誠に身に余る光栄と存じますと同時に、責任の重大さを痛感致しております。

40年近く前、本学に就任以来、伝統的な基礎薬学重視から目まぐるしく変革を重ねた日本の薬学教育、年々充実していった本学の教育・研究体制、松原市から高槻市への大学全面移転と新校舎建設、創立百周年記念事業、そしてこの度の日本の薬学教育改革などなどをつぶさに目にしてまいりました。

『大学の薬学部が来春、2006年度から6年制に移行する』などと新聞紙上をにぎわせたこの大変革は、今さら申し上げるまでもございせんが、質の高い薬剤師養成、臨床に近い実践的な教育「6ヶ月実務実習」が求められたことによるものです。そうした中で、本学でも、その準備に邁進された前学長をはじめとします関係各位のご尽力によりその基本骨格が整い、6年制課程の薬学科と4年制課程の薬科学科を併設することになりました。すでに、新制度の下での入学試験も始まろうとしています。しかし、現実はまだ、その門口に立ったばかりであります。メインとなる6年制課程は従来の薬学と区別して「医療薬学」を重視した、薬剤師のレベルアップにつながる教育体系であり、一方4年制課程は、従来の薬学に見られた創薬などの基礎研究に携わる「サイエンティストとしての意識」を持った薬学生を育てる教育体系です。4年次修了後は、さらに2年間の大学院が用意されています。今後、受験生や在学生への広報を含め、中でも4年制課程の充実を図っていく必要があります。

現状では、薬剤師国家試験の合格率は本学の受験者数および偏差値には直接連動してはいたせんが、この環境は、今後急速に変化していくことが予想されます。教育力の向上とその結果として現れる合格率の向上は、本学を目指す受験生とその家族にとり、最大級の評価軸であることは論を待たないところであります。薬剤師過剰時代が、今後10年以内に訪れることが確実な環境にあることを考慮すれば、薬剤師養成コースである薬学科では高度な医療薬剤師養成教育が欠かせません。他方、薬科学科では十分な基礎薬学科目、応用薬学科目の教育と共に充実した大学院を用意することが不可欠であります。本学では、入学時に薬学部として一括募集し、学科配属は4年次進級時に学生の希望等により行うことが決まっていますので、この制度を本学の特徴と捉え、今までの薬学教育に見られた多様性を残しつつ、優れた人材を育成していかねばなりません。

一方、「ハイテク・リサーチ・センター」プロジェクトなど本学の研究機関としての役割は、先生方の着実な努力の結果、高い評価に値するものとなっています。今後とも、こうした成果をもとに、新たなプロジェクトを

立ち上げ、大学全体としての研究力を一層高め、社会的評価に耐えうる体制を構築していかねばなりません。そのためには、研究資金の有効活用、民間企業などとの共同プロジェクトの推進、国内外からのポストドクターの受け入れ、国際共同研究の推進、社会人大学院制度の整備なども具体化していく必要があります。

なお、前学長の下で、現在の教室・研究室組織の再編・整備について、教授会等で議論され、総合薬学系と専門薬学系を一元化する方向で合意が得られつつあります。私自身は、新教育制度に対応させるために一元化は必要であるとは思いますが、幾つかの困難な問題も含んでいます。今後は、教授会、拡大教授会において十分な議論の上、最終決定する必要がありますが、本学の研究力向上のためにも早急に解決しなければならない重要課題であると考えています。

先に、理事会から発表されました長期収支計画によれば、現在の収入レベルを維持すれば、6年制に対応する設備計画も支障なく推進可能となっています。しかし、新制度への対応に、例えば現在の学生納付金も含め不確定要素が多いのが現状です。その上、既設薬科大学・薬学部の定員増、新設薬科大学・薬学部の乱立に、少子化も加味され、極めて難しい状況下にあります。いずれにしても、本学を取り巻く経営環境・変化を出来るだけ正確に予測し、大競争時代を生き抜くための経営戦略の策定こそが求められます。理事会と教授会との密接で良好な関係のもとでの協議の積み重ねが何より必要であると思えます。

さらに、新制度に向け当然必要となる校舎建設に向けた新学舎建設委員会が立ち上がり、その構成員も決められています。学生諸君にとって魅力ある環境整備（臨床薬学実習、講義室、食堂関連施設などを含め）を関係諸氏と議論を重ねながら、実りあるものにすべく努力を惜しまないつもりです。

その他、理事会と協力しながら附属薬局の経営基盤の強化と教育上の積極的な活用や学生総定員の増加に対応する施設整備の推進と事務組織の再編強化、さらには学生の健康・環境・社会的マナーの意識改革など、まだ書き足りない点が多々ございせんが、折に触れ皆様方や学生諸君とのコミュニケーションを図りながら一歩一歩着実に、実現に向けて努力したいと考えております。

ここ数年は現4年制学生対応の二つのカリキュラムと新教育制度のもとでの学生に対応したカリキュラムが同時進行することになり、全教職員の皆様方に、日常の教育・研究活動および業務にかなりのご負担を強いることは否めません。しかし、「頑張っている人が報われる」そうした大学づくりを目指して、微力ながら全力を尽くす覚悟でございます。

理事、評議員、教職員をはじめ皆様方の絶大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私が、秋山卓爾先生について初めて知ったのは、平成7年3月本学元教授、森下利明先生が退職記念講演（最終講義）をされた時です。その中で森下先生が大学の八十年史を編纂されたことに話が及んだ折り「本学の幾人かの功労者の中で誰が第一の功労者であるかと言われれば、それは秋山先生であり、秋山先生に至ってはどのくらい私財を投じられたのか分からない」ということをお聞きし、そのお言葉が強く印象に残りました。昨年10月9日、本学創立百周年記念式典がリーガロイヤルホテル大阪で挙行された際には秋山先生に思いを馳せたものの、ご家族様をご招待できないことを大変残念に思ったものでした。

秋山卓爾先生は、明治37年初代校主、平山松治先生と共に本学の最初となる大阪道修薬学校を設立されました。その後経営難で廃校に直面した大正10年、敢然と平山校主の後を受け継ぎ校主となり、未曾有の困難に対処し、ついに大正14年日本初の女子薬専である帝国女子薬学専門学校の設立を果たされました。秋山先生は、債務関係書類すべてに署名し、運営資金を自ら提供し、昭和14年66歳で逝去されるまで、35年の永きにわたって献身的尽力により今日の大阪薬科大学の基礎を築き上げられました。しかし、このような前人未踏のご功績も戦後の混乱の中いつしか人々の記憶から薄れ、またご家族様の消息も不明となっていました。しかし、幸い森下利明先生は、本学の歴史資料を丹念に検証、再確認され秋山先生のご功績を私たちに伝えられました。それは「大阪薬科大学八十年史」に纏められています。しかし、なおご家族様の消息は依然不明のままになっていました。

昨年10月の創立百周年記念式典のほぼ10日後、高槻市在住の小野允久様が秋山先生のお孫様であることが全

くの偶然から判明し、すぐ資料室整備委員長の坂田勝治教授に知らされ、続いて今年発足した資料室運営委員会の委員長、石田寿昌教授は、秋山卓爾先生のご家族様を本学にご招待することをその委員会の最初の活動として提案されました。実施の準備は主に石田先生、坂田先生と私が相談し、また小野允久様には秋山家のご親族との連絡と取り纏め役として熱心に動いていただきました。

かくして平成17年7月30日、暑い夏の盛り秋山先生の直系のお孫様、秋山寿一様（埼玉県狭山市）をはじめとした11家族15名の方に全国からお越しいただくこととなりました。当日は、午後2時に皆様タクシーで玄関に到着され、まず資料室と本学の歴史ビデオをご覧いただきました。皆様それぞれとても懐かしそうに資料をご覧になり私たちにいくつかの質問をされました。3時から、大会議室で川島理事長、矢内原学長をはじめ本学関係者30名ほどが参加し記念行事を開催いたしました。最初に本学よりの挨拶、続いて秋山寿一様から秋山家を



秋山卓爾先生と奥様エツ様（大正14年5月9日）



秋山卓爾先生のご親族様と本学関係者

代表してご挨拶をいただき、その後秋山家の方々のご紹介に移りました。次にお孫さまの石田恵子様が所蔵されていた秋山先生と奥様エツ様の貴重なお写真がスクリーンで披露されました〔この写真は（掲載写真）、「大正14年5月9日、守口校舎校門前で日本最初の専門学校昇格と創立20周年を兼ねての祝賀会の記念写真」であることを森下先生が特定されたもので、現在資料室に展示されています〕。その後、森下利明先生から秋山先生のお話を伺いました。森下先生には、ご体調が充分でないにもかかわらず快く私たちのお話を聞いていただいたもので、そのお話は秋山先生のご業績だけでなくエツ様の本学に対する並々ならぬご尽力、秋山先生が優しく高潔なお人柄なためにかに学生に慕われていたかに及び懇切なもので森下先生の慈愛のこもった語り口とともに参

加者は一様に深い感銘を受けました。その後同窓会よりの写真集「母校100周年に寄せて」の贈呈などが続き、記念写真の撮影でお開きとなりました。今回お越しになられた方々はみなお孫様以降の世代で今更ながら遠い年月を感じました。しかし、その場の空気は熱く予定していた1時間をはるかに過ぎ3時間近くにも及び、参加者一同秋山先生につくられた本学を一層発展させなければならぬという自覚を深めることができました。

今回の行事の後、ご家族様から御礼状をいただき全国に離れ離れになった秋山家の人々がこれを機に再び親交を深められているということを押読み、今回の世話係の者はみな嬉しく思った次第です。

なお、秋山卓爾先生は、現在奈良県大和郡山市九条の光傳寺の秋山家のお墓に眠っておられます。

「個人情報の保護に関する法律」施行に伴う対応について 事務局長 肥塚 敏彰

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたことに伴い、本学においても「学校法人 大阪薬科大学個人情報保護規程」を制定し、以下のとおり学生、職員、大学関係者の個人情報の保護に取り組むこととなりました。この件につきましては、継続的に改善に努めてまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

学校法人 大阪薬科大学プライバシー・ポリシー

学校法人 大阪薬科大学（以下「本学」という。）は、以下のとおり個人情報の取り扱いと管理についての基本を定め、個人情報の保護に努めます。

1. 関係法令等の遵守

本学は、「個人情報の保護に関する法律」及び関係諸法令（以下「法令等」という。）に基づき「学校法人 大阪薬科大学個人情報保護規程」（以下「規程」という。）を定めました。これらの法令等及び規程を遵守し、大学が保有する個人情報の保護に努めます。また、個人情報保護に関し継続的な改善に努めます。

2. 個人情報の収集、利用

個人情報の収集にあたっては、個人情報の利用目的を明らかにし、その目的達成のために必要な範囲で、適正かつ公正な手段により収集及び利用を行います。

3. 個人情報の管理

収集した個人情報は、常に正確な内容を保つよう努めます。また、個人情報の紛失、毀損、破壊、改ざん、漏えい等を防止するため、適正な措置を講じ厳正な管理のもとで保管します。

4. 保有個人データに関する業務の学外委託

保有個人データに関する業務を学外に委託する場合には、委託業者等に対し漏えいや目的以外の利用を行わないように契約で定め、厳重な管理を行うよう指導します。

5. 保有個人データの第三者への提供

収集した個人データは、あらかじめ本人の同意を得た場合や法令等により例外として取り扱われる場合を除き、原則として第三者への提供はいたしません。

6. 保有個人データの開示、訂正、削除、不服等への対応

本学が保有する個人データについて、本人から開示、訂正、削除、不服等の申し出があった場合には、本人であることを確認のうえ、必要な手続きを経て適正に対応いたします。

7. 個人情報に対する学内体制

個人情報保護のために「個人情報統括責任者」を置き、かつ、「個人情報保護委員会」を設置し、管理監督のための体制を整備し、個人情報の保護に努めます。

市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も「健康とくすり」をメインテーマとして、第19回（5月28日（土））、第20回（10月22日（土））の2回にわたって開催いたしました。

講演内容についてはこれまで参加された皆様のアンケート結果を参考にして決定し、出来るだけ皆様の意向に沿った内容となるよう努めてまいりました。

また同時に、「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」も行い、「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の薬剤師の先生方（約20名）に、サプリメントなども加え、くすりに関するあらゆる相談に応じていただきました。

本年度は、春・秋の2回開催となりましたが、両日あわせて847名もの参加者があり、成功裏に終えることができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本講座の開講にあたり、ご共催いただきました高槻市、（社）日本薬学会近畿支部、（社）大阪府薬剤師会、（社）大阪府病院薬剤師会および大阪薬科大学同窓会、ならびにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会、高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

第19回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成17年5月28日（土）13：00～16：10

場 所：大阪薬科大学 講堂

演題／講師：

「家族と共にケアする～我が家のような住まいづくり～」

NPO法人 水度坂友愛ホーム 理事長 梅田 史世氏
「老いと物忘れ～病気としての理解と、『生活する老人』としての理解と～」

医療法人光愛会 光愛病院 医師 大西 雅彦氏

第20回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成17年10月22日（土）13：00～16：10

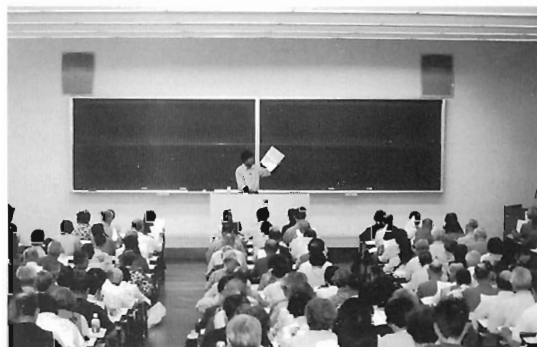
場 所：大阪薬科大学 講堂

演題／講師：

「日光と健康」

関西医科大学 皮膚科学講座 教授 堀尾 武氏
「腰痛・関節痛について」

大阪赤十字病院 整形外科部長 富原 光雄氏



第19回市民講座 講演風景



第20回市民講座 講演風景



くすりの相談室

薬の効果と副作用の両面を十分に検討することにより、薬物治療の有効性(適正使用)を評価しなければなりません。そのために副作用の成り立ちや症状等を知り、早期発見に貢献し、その回避や軽減対策を提案できることが求められます。これらのことから薬剤師は、「薬物治療における安全管理者」との位置付けが可能です。このような観点から2005(平成17)年度公開教育講座の主テーマとして、『くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～』を掲げました。

この主題のもとに、5月(第39回)公開教育講座においては、浜松医科大学第1内科の菱田明教授に、「薬による腎障害を減らすためにできること」を、それに続いて、「生体リズムと薬の作用・副作用」について、自治医科大学・臨床薬理の藤村昭夫教授に、話題を提供していただきました。参加者数は、全く予想外の多数であり、396名に達しました。

7月(第40回)におきましては、山梨大学大学院(医学部)薬理学の橋本敬太郎教授に「薬物による心臓毒性」を、「くすりの代謝の個人差と安全な使用」について、東北大学大学院薬学研究科の山添康教授に、講演をしていただきましたが、参加者数は337名と前回に引き続いて多数でした。

11月(第41回)では、本年度最後の講座として、最初に国立医薬品食品衛生研究所・室長の平林容子先生に「くすりと薬剤性血液障害の発生機序～血液毒性の理解のために～」と題して、お話ししていただき、続いて高槻赤十字病院・部長の林敬次先生から、「小児科領域におけるくすりの副作用～効果との対比で考える～」について、豊富な臨床例をもとに、話題を提供していただきました。参加者数は288名であり、本年度3回の延べ参加者数は、1,021名の多数になりました。

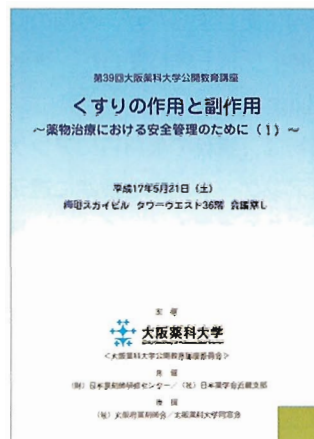
参加者(大阪薬科大学卒業生約40%、他大学卒業生約60%)であり、約60%は30～49歳のアンケート集計結果によりますと、本講座自体への評価は概ね好評を得ていることに、お世話にあたった公開教育講座委員会の委員は安堵しております。しかし、会場(教室スタイルの配置で収容150名規模)は1年前から予約していたために、座席数の確保の都合上、机をなくし通路を狭くして椅子のみの配置としました。このために苦言を呈された参加者もおられました。

さらに新しい試みとして、講師が使用するスライド(パワーポイントのファイル)の全てを収録した受講資料集を、参加者に開催当日にお渡ししました。講師に講演日よりかなり早くに、スライド準備のご協力をいただ

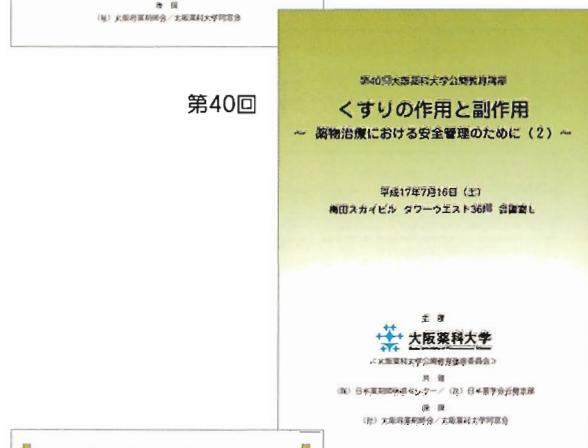
けたお陰であります。特に11月(第41回)では、本学同窓会のご支援により、すべての講演用スライド(図表)を多色刷りとして掲載することができ、参加者に喜んでいただくことができました。

本講座の開催にあたり、ご共催いただきました(財)日本薬剤師研修センターと(社)日本薬学会近畿支部、ならびにご後援いただきました(社)大阪府薬剤師会と大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

平成17年度 受講資料集



第39回



第40回



第41回

平成17年度前期の授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。平成13年度から始まった本アンケートも5年目となり、本学における自己点検・評価活動の中でも極めて重要な項目に位置づけられるようになりました。平成16年度前期分からは、教員からの指摘に基づいていくつかの設問項目の表現に改良を加えています。詳細についてはアンケート結果をご覧くださいと思いますが、前回（平成16年度後期）同様、ほぼすべての設問項目（1～17）で高い数値が得られました。これは、各教員がこれまでのアンケート結果を謙虚に受け止め、講義に対して自己努力を重ねたことが要因の一つであると思われます。また、回を重ねる毎にアンケートの回答率が低下する傾向にありましたが、今回の回答率は前回と比べて約10ポイント上昇しました。今後は更に上昇するよう願っています。

アンケートを始めた当初は、講義の最終日にアンケートをとっていましたが、アンケート結果を授業に還元するためには学期半ば頃に行うべきであるとの意見に基づ

いて、一昨年から、アンケート用紙の教員への配布時期を早めるようにしました。したがって、教員によってはアンケートを早めに行い、学生の要望や意見を速やかに講義に取り入れる努力もなされています。

本授業評価アンケートの結果に対する教員側からのコメントやメッセージは、学生に公開されています。また、教員サイドから教務部への要望も収集しており、少しでも良好な講義環境への改善努力もなされています。

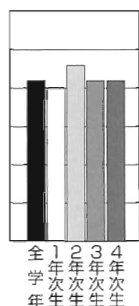
本授業・実習評価アンケートの実施目的は、各授業・実習において各教員が自己努力を惜しまず更なる質の改善に役立てることです。また、学生の側から見れば、授業に対する日頃の取り組みや各自の勉学に対する意欲の点検に活かされるべきであります。教務部としても、本アンケートが本学の教育活動の改善により役立つよう、今後も設問項目の点検や実施方法等について議論するとともに、回答率の更なる上昇にも努めたいと考えています。

平成17年度前期授業評価アンケート集計

【設問】

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか（休講がなかった場合は0を記入してください）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください（5－非常に難しい、4－難しい、3－適切、2－簡単、1－簡単すぎる）
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください（5－非常に良い、4－良い、3－普通、2－あまり良くない、1－良くない）
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか

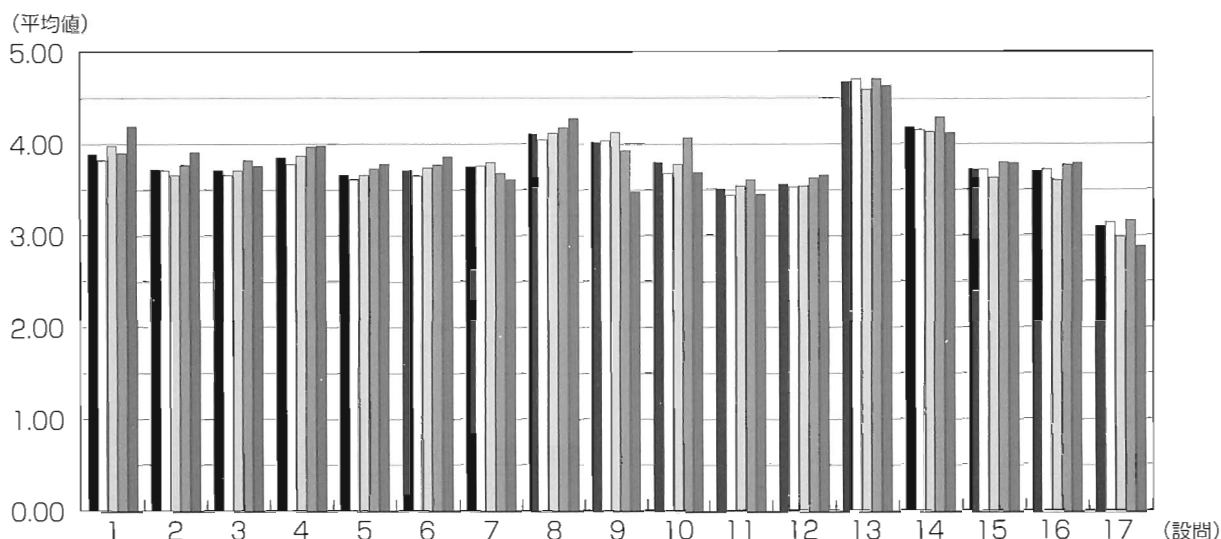
	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延べ履修人数	14,882名	5,676名	4,465名	3,990名	751名
延べ回答人数	9,149名	4,234名	2,586名	2,096名	233名
回答率	61.5%	74.6%	57.9%	52.5%	31.0%



回答は、

- 5-そう思う (5ポイント)
- 4-どちらかといえばそう思う (4ポイント)
- 3-どちらともいえない (3ポイント)
- 2-あまりそうは思わない (2ポイント)
- 1-そうは思わない (1ポイント)

から選択。ただし、設問2, 9, 10については、0-該当しない (0ポイント) を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.91	34.4%	35.2%	19.9%	7.5%	2.8%	-	0.1%
2	3.74	25.2%	34.4%	24.1%	7.9%	3.4%	4.8%	0.2%
3	3.73	25.6%	36.1%	27.1%	7.4%	3.5%	-	0.4%
4	3.87	27.9%	36.3%	31.2%	2.5%	1.5%	-	0.6%
5	3.68	24.0%	35.9%	27.5%	8.4%	3.9%	-	0.3%
6	3.73	25.7%	35.1%	28.3%	7.4%	3.3%	-	0.3%
7	3.77	26.2%	34.8%	30.7%	5.8%	2.3%	-	0.3%
8	4.13	41.6%	35.9%	17.3%	3.2%	1.7%	-	0.3%
9	4.04	34.8%	28.7%	16.6%	4.6%	1.8%	13.2%	0.3%
10	3.82	8.0%	5.2%	6.5%	1.0%	1.1%	77.6%	0.6%
11	3.53	11.0%	34.4%	51.0%	2.5%	0.7%	-	0.4%
12	3.58	17.5%	36.6%	35.0%	7.5%	3.1%	-	0.4%
13	4.70	77.7%	15.4%	5.5%	0.9%	0.3%	-	0.3%
14	4.20	44.7%	35.1%	15.8%	2.9%	1.1%	-	0.3%
15	3.74	25.9%	35.1%	28.6%	6.6%	3.5%	-	0.4%
16	3.72	25.7%	35.0%	27.9%	7.2%	3.7%	-	0.4%
17	3.11	12.3%	22.5%	39.5%	14.7%	10.6%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	384	34.2%	31.6%	21.7%	8.5%	4.0%	-	0.1%
2	373	25.8%	31.3%	23.9%	7.6%	3.8%	7.2%	0.4%
3	368	25.1%	34.0%	28.1%	7.9%	4.4%	-	0.4%
4	380	26.6%	32.7%	35.0%	3.2%	1.8%	-	0.7%
5	363	24.0%	33.7%	28.2%	8.8%	4.9%	-	0.3%
6	367	25.6%	32.0%	29.5%	8.6%	4.0%	-	0.3%
7	378	28.1%	32.9%	30.1%	5.8%	2.7%	-	0.4%
8	407	40.8%	33.8%	18.9%	4.0%	2.1%	-	0.3%
9	406	34.7%	25.5%	15.9%	4.0%	2.1%	17.5%	0.4%
10	370	9.0%	4.7%	8.1%	1.5%	1.8%	74.3%	0.5%
11	346	10.7%	30.8%	53.0%	3.8%	1.2%	-	0.5%
12	355	17.1%	35.4%	36.0%	7.6%	3.4%	-	0.4%
13	473	80.7%	12.5%	5.6%	0.8%	0.2%	-	0.3%
14	417	44.7%	33.5%	17.0%	3.2%	1.4%	-	0.3%
15	374	27.8%	32.3%	29.3%	6.5%	3.9%	-	0.4%
16	374	27.6%	33.4%	27.7%	7.2%	3.7%	-	0.4%
17	316	14.6%	22.7%	37.5%	13.2%	11.6%	-	0.5%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	400	38.2%	35.2%	16.8%	7.5%	2.1%	-	0.2%
2	368	25.0%	34.5%	23.1%	9.9%	4.3%	3.1%	0.2%
3	373	26.1%	36.7%	24.9%	8.1%	3.9%	-	0.3%
4	389	26.4%	40.8%	29.1%	1.9%	1.6%	-	0.2%
5	368	25.1%	35.9%	24.9%	9.6%	4.2%	-	0.3%
6	376	27.3%	36.0%	25.2%	7.5%	3.6%	-	0.3%
7	382	27.7%	36.8%	27.4%	5.6%	2.2%	-	0.2%
8	414	40.6%	38.6%	15.9%	3.1%	1.6%	-	0.2%
9	415	36.3%	32.8%	14.5%	3.1%	0.9%	12.2%	0.2%
10	380	4.4%	2.8%	4.1%	0.5%	0.6%	87.0%	0.5%
11	356	11.6%	34.5%	51.3%	1.9%	0.3%	-	0.5%
12	356	18.4%	36.0%	32.4%	8.8%	4.1%	-	0.3%
13	462	72.6%	19.0%	6.2%	1.3%	0.5%	-	0.4%
14	415	41.2%	38.0%	15.8%	3.3%	1.4%	-	0.4%
15	365	23.6%	34.5%	29.5%	7.4%	4.6%	-	0.5%
16	362	22.8%	35.2%	27.5%	8.7%	5.2%	-	0.6%
17	300	9.1%	21.1%	41.4%	16.5%	11.3%	-	0.6%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	392	30.1%	40.7%	21.4%	6.1%	1.6%	-	0.1%
2	379	24.4%	38.4%	26.4%	6.6%	1.6%	2.4%	0.1%
3	384	26.4%	39.0%	27.4%	5.5%	1.4%	-	0.2%
4	399	32.1%	37.7%	27.2%	1.7%	0.7%	-	0.7%
5	375	23.0%	39.2%	29.1%	6.6%	2.0%	-	0.1%
6	379	24.0%	39.3%	29.6%	5.2%	1.7%	-	0.2%
7	370	21.5%	35.8%	35.2%	5.7%	1.5%	-	0.2%
8	420	43.7%	36.4%	16.7%	1.9%	1.1%	-	0.2%
9	395	34.7%	30.8%	19.2%	6.8%	2.1%	6.2%	0.2%
10	409	10.5%	9.0%	6.0%	0.6%	0.3%	72.9%	0.8%
11	363	11.5%	41.3%	45.7%	0.9%	0.3%	-	0.3%
12	365	17.7%	38.5%	36.3%	5.7%	1.6%	-	0.2%
13	473	78.7%	15.7%	4.7%	0.6%	0.1%	-	0.2%
14	431	49.9%	34.1%	13.5%	2.0%	0.4%	-	0.2%
15	382	25.7%	39.9%	26.4%	6.0%	1.7%	-	0.3%
16	379	26.1%	36.9%	28.9%	5.8%	2.1%	-	0.2%
17	318	12.4%	23.7%	40.9%	14.9%	7.8%	-	0.3%

4年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	421	35.6%	52.4%	9.4%	2.1%	0.4%	-	0.0%
2	393	23.2%	51.9%	18.5%	5.2%	0.4%	0.9%	0.0%
3	378	21.5%	43.3%	28.3%	5.6%	1.3%	-	0.0%
4	400	31.3%	39.9%	21.9%	2.6%	1.3%	-	3.0%
5	380	20.6%	45.5%	27.9%	5.6%	0.4%	-	0.0%
6	388	23.2%	44.6%	28.8%	3.4%	0.0%	-	0.0%
7	363	16.7%	37.8%	36.9%	6.0%	1.3%	-	1.3%
8	430	47.2%	40.3%	8.6%	2.6%	1.3%	-	0.0%
9	350	21.0%	23.6%	29.2%	13.3%	3.4%	9.0%	0.4%
10	371	5.2%	7.3%	8.6%	0.9%	0.4%	74.7%	3.0%
11	347	6.9%	34.3%	56.7%	1.7%	0.0%	-	0.4%
12	368	13.7%	45.9%	33.5%	6.0%	0.0%	-	0.9%
13	466	69.5%	26.6%	3.4%	0.0%	0.0%	-	0.4%
14	414	36.9%	43.3%	15.9%	3.0%	0.4%	-	0.4%
15	381	19.3%	48.9%	25.3%	5.6%	0.4%	-	0.4%
16	381	19.7%	47.2%	27.5%	4.7%	0.4%	-	0.4%
17	290	4.7%	21.9%	41.2%	22.3%	9.4%	-	0.4%

本年度の企業の採用状況は、若干緩和傾向にあります。各企業とも派遣社員の増加等による雇用形態の変化が顕著になり、学生にとっては依然厳選採用中です。しかしながら、本学学生の進路・就職状況は、昨年度同様堅調に推移しています。薬学生の進路・就職状況も景気の動向は勿論のこと、行政の影響等を受けて本年度も激変しています。本学では就職ガイダンスや個人面談を軸とした学生個々に合った指導を強化して、これら激動している就職状況の変化に対応しています。

平成17年10月末現在の学部4年次生(53期生)の進路・就職内定状況は(表1)に示す通りで、内定率は75.9%(昨年度73.1%)となっています。現在、進路未定者の多くは病院薬剤師を第一希望としている学生です。本年度の進路・就職状況の特徴は2つあります。第1点目は、昨年度同様、大学院進学者が増加していることです。これは平成18年度よりスタートする薬学教育6年制が大きく影響しており、本年度大学院進学者は29.3%(昨年度30.8%)です。第2点目は、公務員試験挑戦者の増加です。10月末日現在、公務員合格者は2.6%(昨年度2.5%)です。今後、これから実施される予定の大阪府、大阪市や、採用試験進行中の奈良市、高槻市および独立行政法人国立病院機構の各医療センター等の発表待ちもあり、増加を期待しています。

本学就職部委員会・就職課では、個々の学生のニーズに応じた進路・就職支援を強化しています。

1) 個人面談の充実

3年次生全員に対する就職部委員による個人面談、かつ就職課員と学生(全学年対象)との個別面談も増加しています。

2) 領域別就職ガイダンスの充実

当ガイダンスでは、本学OB・OGを講師に招き、学生の職種選択・進路決定に役立つ講演を実施し、アップデートで良質な情報を学生に提供しています。領域

別ガイダンスは、製薬企業、CRO(医薬品開発業務受託機関)、公務員、病院、保険調剤薬局・ドラッグストアで実施しました。

3) インターンシップの拡大

4年次生(53期生)には、平成16年8月に大手製薬企業12社にお願いして、学内選考を経た27名で実施しました。MR活動を中心とした就職体験で、参加学生にとって貴重な体験となりました。平成17年度3年次生(54期生)には、さらに規模を拡大して、17社31名で8月に実施しました。

本学学生の就職活動は、製薬企業(MR)を中心として3年次生の3月初旬より始まり、続いて保険調剤薬局・ドラッグストアなどでは昨年度よりさらに早期化しています。MR職は5月頃までに、また、内勤職もおおよそ夏休みまでに終了しています。また、病院研修生の募集は大学院進学とほぼ同じく7月頃から始まり、試験が実施されています。病院薬剤師の募集も7月頃より始まり、その後、年末に向かって採用内定が出てくることになります。保険調剤薬局・ドラッグストア薬剤師に対する需要は、急速な医薬分業の進展もあり、極めて大きくなっています。この職種では、本年度は全国展開している大規模店の関西進出が激しく、本学への求人・採用にもその兆しが出ています。この職種については、需要供給の関係でここ2~3年は通年採用が続くと考えていますが、今後は薬学部の新設等もあり、予断を許さない状況にあります。

就職部委員会・就職課では、従来通り一人ひとりの適性や能力に応じてきめ細かな指導ができるように努力しております。

関係各位におかれましても、本学学生の就職につきまして、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、平成17年度大学院博士前期課程2年次生(30期生)の進路・就職内定状況は(表2)の通りです。

(表1)

平成17年度 4年次生(53期生)進路・就職内定状況

(平成17年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局	12	12.4	48	22.9	60	19.5	
病院・診療所	2	2.1	9	4.3	11	3.6	
病院研修生	3	3.1	14	6.7	17	5.5	
薬業関連企業	(MR)	16	16.5	20	9.5	36	11.7
	(内勤)	1	1.0	9	4.3	10	3.3
公務員・教職員	3	3.1	5	2.4	8	2.6	
大学院進学 (博士前期課程)	43	44.3	47	22.4	90	29.3	
そ の 他			1	0.5	1	0.3	
内 定	80	82.5	153	72.9	233	75.9	
未 定	17	17.5	57	27.1	74	24.1	
合 計	97	100.0	210	100.0	307	100.0	

(表2)

平成17年度 大学院博士前期課程2年次生(30期生)進路・就職内定状況

(平成17年10月31日現在)

区 分	男	%	女	%	計	%
薬 局			2	6.1	2	3.9
病院・診療所	1	5.6			1	2.0
病院研修生			1	3.0	1	2.0
薬業関連企業	(MR)		1	3.0	1	2.0
	(内勤)	8	44.4	16	48.4	24
公務員・教職員	1	5.6	1	3.0	2	3.9
大学院進学 (博士後期課程)						
そ の 他						
内 定	10	55.6	21	63.6	31	60.8
未 定	8	44.4	12	36.4	20	39.2
合 計	18	100.0	33	100.0	51	100.0

第40回大薬祭「笑顔」を終えて

学生部長 木村 捷二郎

本年度の大薬祭「笑顔」は、10月28日（金）～30日（日）の間、実施された。以下、この3日間を振り返ってみたい。

まず、初日、秋晴れの好天気の下に「バレーボール大会」で開会。日頃、クラブ練習も少な目で閑散としている本学グラウンドは、この日に限って、大きな歓声が満ちた。クラブや研究室単位、その他、有志など出場16チームによるトーナメント戦。午後まで1球1球のボールの行方に歓声が上がった。その間、食堂および喫茶では、文化局クラブによる「展示発表会」、また、野外ステージでは「ファイトクラブ」や「ベストカップルコンテスト」（写真-1）、中央時計台の周りで



（写真-1）ベストカップルコンテスト

は、各クラブの1年次生による模擬店が立ち並んだ。夕方に入って、体育館内のステージでは、Daiyaku Collectionと称する「クラブ生のゆかた姿」ショー？でこの日は閉じた。日頃、比較的静かな学内に、若者の賑やかで活気ある声が大きく響きわたる1日であった。

2日目、いやな予感とともに、最悪の事態が発生。早朝6時ごろから“ポツポツからシトシト”へと昼過ぎまでの雨。「フリーマーケット」と「薬用植物園見学会」が中止。学内は勿論、大学周辺の多くの人たちも楽しみにしていたのに残念である。野外ステージでの「アカペラライブ」（写真-2）、「回転的当てビンゴゲーム」、



（写真-2）アカペラライブ

「DANCE BATTLE in DAIYAKU」は講義・実習棟1階のピロティで…。しかし、屋内での催しの1つ、「科学実験教室」（写真-3）では、近くの小学生たちが父母



（写真-3）科学実験教室

同伴で参加。「消える文字」、「家庭で入手できる材料でスライム作り」「よく弾むシャボン玉」などで“科学”を実感した。また、大会館ホールでの「ライブ喫茶」では音楽大好き学生による発表会。野外では、午後になって雨が上がり、模擬店が再開、多くの小学生たちが「クイズラリー」を楽しんだ。夕方、17:00から体育館ステージでは、今回の大学祭のメインショー、人気若手コンビ“アメリカザリガニ”などによる「松竹お笑いライブ」が開催された。

3日目、朝から快晴。待ちに待った「フリーマーケット」（写真-4）、「薬用植物園見学会」や「クイズラリー」



（写真-4）フリーマーケット

では、近隣各地から大勢の人であふれ、その間をぬって「ウォーリーをさがし出せ」。野外ステージでは、近くの「園児の発表会」、トークを混えた新進気鋭の「歌続ライブ」。屋内では、軽音楽部・フォークソング部による「ライブ」（写真-5）、大学近傍のパパやママたちがチャレンジした「体力測定」、茶道部による「お茶会」、「コーラス部の発表会」などなど。夕方、17:00から今回の祭りのメインイベント「薔薇祭」での、男子学生によるショー。日頃、学内では部活沈滞気味？の“陸上部学生による舞”が優勝を飾って、終了した。



(写真-5) ライブ

いやいや、盛りだくさんの催し物。それぞれの催しに参加した学生たち、それに大葉祭の実行委員、車の誘導、準備、片づけ、その他、裏方で黙々と作業した学生たち、本当にご苦労さまでした。お祭りは3日間だったけど、その準備は、何ヵ月も前から…、だった。最後の後片づけもしっかりとでき、「本学の学生もやればできる」を実感しました。また、「けが人もなく…」と言いたいが、DANCE BATTLEのバック転で“たんこぶ”を作った高校生と体力測定で“ぎっくり腰”になったパパ、の2名を除いて、大きな事故もなく、大成功でした。「やったゾ!」。参加したそれぞれの学生のこれからの人生にとって、「良き思い出」とともに、「やればできる」の自

信になったと思います。

ただ1つ、学生の皆さんには、恩着せがましく聞こえるかもしれませんが、これだけは理解しておいてほしい。確かに皆さんは一致協力してよくやり遂げました。しかし、このお祭りは“大学”という保護された社会環境下で行ったこと。すなわち、その裏には、この3日間を含めて、数ヵ月前からの準備中における相談、当日、事務室で待機と対応に走り回った学生課の職員、学生部の先生方、また、それぞれの催しに参加して頂いた先生方の協力、および多額の予算を準備して頂いた大学当局と育友会や同窓会、および寄付を頂いた企業や高槻市内の商店の方々など、多くの支えがあって実行できたこと。これを心のどこかに入れておいてほしい。これは、これから先、社会に出ても同じです。「自分が1人で立ち上げた、また、成果を出した」と思っている仕事も、よく考えると、会社の同僚、家族や友人など多くの人の支えがあって実行できている。

これを機会に、私たちは、お互いに「笑顔」で「人間はみんなで支え合って生きている」ことをよく心に留めてほしい。これが今年の大葉祭で実感できたら本当の大成功。嬉しく思います。

創立百周年記念植樹 ～ クスノキ ～

このたび、大学会館南側（藤棚近辺）の芝生広場に本学創立百周年記念事業の一環（記念植樹）として、クスノキ（樹高約8m）が植樹されました（表紙参照）。



今夏、本学の特待奨学生制度に基づき、成績優秀者（6月27日）と研究成果優秀者（9月5日）に分けて、第1回表彰式が行われた。その趣旨と制度の詳細は、本学報No.49（2004.6.10発行）において「この制度は、学業、研究、その他の分野で優れた学部学生、大学院学生または団体に奨学金を給付し、表彰するものであり、選考基準は、学部学生は前年度の学業成績、大学院学生は大学院入試成績および大学院での研究成果等を勘案して支給する」と紹介されたとおりである。本年度は、この選考基準に則り、学部学生（2～4年次生）は平成16年度の成績から、大学院1年次生は大学院入試の成績から、それぞれの最優秀者、次席者、三席者が選考された。また、大学院2年次生および博士後期課程学生については、研究内容のプレゼンテーション（7月25日）の内容から大学院委員会において3名が推薦された。

この制度は、毎年を選考において、繰り返し特待奨学生となることができるので、第1回特待奨学生として表彰された者を含めて、次年度も勉学、研究および課外活動などに大いに頑張ってほしい。

平成17年度大阪薬科大学
特待奨学生（第1回） 表彰者一覧

（50音順）

現2年次生

伊ヶ崎由香
井上 真希
木村 友香

現3年次生

音窪 麻衣
木村 敬子
西田 光希

現4年次生

谷田いずみ
仲里 華子
美馬 将司

現大学院修士課程1年次生

笹岡 徹誠
角 祐美
田路さやか

現大学院修士課程2年次生～博士後期課程

池林 里美 M2
高山 淳二 D1
中野 大介 D3



特待奨学生表彰式



成績優秀者 特待奨学生



大学院学生による研究成果発表会



研究成果優秀者 特待奨学生

一「食」にまつわる雑感一

「実りの秋」といいます。新米やきのこ、果物、秋ならではの食材が、新鮮にいただけるのは、楽しみの一つですね。でもみなさん、「実り」を日常的に実感するのでしょうか。スーパーやコンビニには、いつでも四季のものが「実」っています。食べたいものを、食べたいときにいただけることが、多くなりました。

先日、新聞のコラムに、「個食の時代」というタイトルを見つけました。みんなで同じものを、同じときに食べる、という図式が崩壊しつつある、というのです。私は、少なからずショックを受けました。やはり食卓は、家族が笑顔で、できるだけ手作りの同じもの（あるいは、手作りの要素の大きいものを）、おいしく、楽しくいただくのが、ベストだと思っていたからです。

この、私の価値観は、私自身の幼少期から、親に与えられてきたやり方と考え方に、実際の楽しかった経験が加わって形成され、取り入れられたものです。幼い頃に刷り込まれた記憶や価値観は、深く再考することなく、それを当然と受け継いでいる部分が多くなっています。ですから、同じ家に生活する家族でありながら、まったく別々のものを（当然、別々となると手間がかかりますから、手作り度は少なからざるを得ません）まったく別々の時間に、へたをすると場所まで異にして（自分の部屋だったり、台所だったり）食べるという食事風景に、ショックを受けたわけです。

しかし、実際自分が家族の食事を作るときのことを考えてみると、作者は、自分の嫌いなものはほとんど食卓に並べず、バランスは考えても、その日、その時、自分の食べたいものを中心に作るわけですが、食べさせられるほうは、自分の食べたいものを自分で選ぶ、という自主性は無視されるわけです。実は私は“生力キ”が苦手なので、我が家の食卓にはほとんど並びません。少々好みであれば、許されるかもしれませんが、野菜がダメ、魚がダメ、揚げ物ばかり、など、大きく偏りがあると、作者に任せておくことは、逆に良くないこと、である場合もあるかもしれません。余談ですが、アメリカでは、ドレッシングの種類、肉の焼き方、付け合わせまで、細かく注文することが必要です。それに比べると、日本は“おまかせ”や“定食”が多いですね。

「食育」ということが言われている時代ですから、自分でバランス、量を考え、自分で自分の食べたいものを用意する、ということができるのは、誰にとっても重要

で必要なことではあると思います。しかし、いくらバランスよく、きちんと自分で作ったとしても、同じ家で、家族のそれぞれが、自分の食べたいものをばらばらに食べている、という光景が、私には、異様な感じがして、仕方がないのです。もし、みんなでワイワイ言いながら鍋をつつく、という光景が無くなるのだとしたら、ほんとにそれでいいのか…、と釈然としない思いが残るのです。とはいえ、「鍋をワイワイ言いながらつつく」という光景は、無くならないでしょう。それは、「イベント」として残っていくのでしょうか、やはり、なんだか、釈然としないのです。

食事を共にすることには、大きな意味があると思います。「個食」がそれを奪っているのだとしたら、人は気楽さを受け取る代わりに、大切なものを失いつつあるように思えてなりません。



児玉 陽子相談員



岡 鈴佳相談員

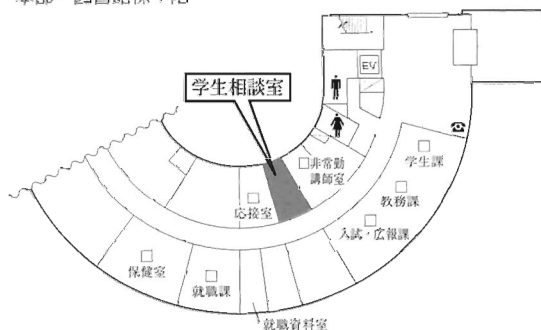
開室時間

毎週火曜日 12:00~16:00 児玉 陽子

毎週木曜日 12:00~16:00 岡 鈴佳

《場所》

本部・図書館棟1階



tel: (072)690-1077(直通)

mail: counsel@gly.ups.ac.jp

教務課だより

平成17年度 後期行事予定 〈学部〉

平成17年

- 8.30(火) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 9.2(金)
{ 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
9月10日(土)を含む
- 9.14(水)
9.5(月)
{ 前期再試験(1~3年次生)9月10日(土)を含む
- 9.14(水)
9.15(木) 後期授業開始(1~3年次生)
9.15(木) 就職ガイダンス(3年次生)
9.20(火) 月曜講義の振替開講日(1~3年次生)
9.20(火)
{ 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 9.21(水)
9.22(木) 金曜講義の振替開講日(1~3年次生)
9.22(木) 特別再試験 受験者発表(4年次生)
9.26(月) 就職ガイダンス(3年次生)
9.29(木) 後期選択科目(1~3年次生)履修届提出締切
- 10.14(金) 平成18年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験
10.17(月)
{ 特別再試験(4年次生)この期間の月曜日
- 12.12(月)
10.21(金) 平成18年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 10.22(土)
第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 10.24(月)
10.27(木) 第40回大薬祭準備(午後臨時休講)
10.28(金)
{ 第40回大薬祭等(臨時休講)
- 10.31(月)
- 11.12(土) 平成18年度公募制推薦入学試験(S方式)・
帰国生特別選抜入学試験(K方式)
- 11.19(土) 平成18年度AO入学試験(A方式)第1次選考
11.25(金) 平成18年度公募制推薦入学試験(S方式)・
帰国生特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
- 11.26(土)
第4回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 11.28(月)
11.29(火) 就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬局)]
- 12.2(金) 平成18年度AO入学試験(A方式)第1次選考
合格者発表
- 12.7(水) 実験動物慰霊祭
- 12.10(土) 平成18年度AO入学試験(A方式)第2次選考
12.中旬~1.初旬 就職個人面談(3年次生)
- 12.17(土) 平成17年度長期病院実務実習報告会(4年次
生長期病院実務実習コース)
- 12.20(火) 平成18年度AO入学試験(A方式)合格者発表
12.20(火) 就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(企業)]
- 12.21(水)
{ 第5回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 12.22(木)
12.22(木) 後期授業年内終了(1~3年次生)

平成18年

- 1.10(火) 後期授業再開(1~3年次生)
1.10(火) 月曜講義の振替開講日(1~3年次生)
1.10(火) 後期授業終了(1~3年次生)
1.11(水)
{ 後期授業予備日
- 1.13(金)
1.16(月)
{ 後期定期試験(1~3年次生)
- 1.27(金)
1.20(金) 平成18年度大学入試センター試験実施準備
(午後)
- 1.21(土) 平成18年度大学入試センター試験
{ [センター試験利用入学試験(C方式)]
- 1.22(日)
1.30(月) 後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切
午後1時(教務課)
- 2.1(水) 平成18年度一般入学試験I(F方式)[本学・
大阪国際会議場・広島国際会議場・高松商工
会議所会館]
- 2.3(金)
{ 薬学総合演習正規試験1(4年次生)
- 2.4(土)
2.7(火) 後期再試験 受験者発表(1~3年次生)
2.7(火) 平成18年度一般入学試験I(F方式)合格者
発表
- 2.9(木) 平成18年度一般入学試験II(G方式)(本学・
大阪予備校)
- 2.13(月)
{ 薬学総合演習正規試験2(4年次生)
- 2.14(火)
2.13(月)
{ 後期再試験(1~3年次生)2月18日(土)を含む
- 2.23(木)
2.17(金) 平成18年度センター試験利用入学試験(C方
式)・一般入学試験II(G方式)合格者発表
- 2.20(月)
{ 薬剤師国家試験全国統一模擬試験(4年次生)
- 2.21(火)
2.21(火) 卒業生発表(教務課)
2.24(金) 特別再試験受験者発表(3年次生)
- 3.6(月)
{ 特別再試験(3年次生)
- 3.9(木)
3.11(土)
{ 第91回薬剤師国家試験(厚生労働省)
- 3.12(日)
3.16(木) 進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
3.18(土) 学部(学士)学位記授与式

平成17年度 後期行事予定 〈大学院〉

平成17年

9.26(月)後期特論開始

10.3(月)後期特論選択科目履修届提出締切

10.3(月)平成18年度(第2次)修士課程一般入学試験
出願受付

10.7(金)

10.14(金)平成18年度(第2次)修士課程一般入学試験

10.21(金)平成18年度(第2次)修士課程一般入学試験
合格者発表

12.12(月)後期特論終了

平成18年

1.20(金)

平成18年度博士後期課程入学試験出願受付

1.27(金)

2.7(火)平成18年度博士後期課程入学試験

2.15(水)修士学位論文提出期限 午後1時(教務課)

2.17(金)平成18年度博士後期課程入学試験合格者発表

2.24(金)

修士・博士学位論文発表会

2.25(土)

3.7(火)平成17年度修士・博士課程修了者発表

3.18(土)大学院(修士・博士)学位記授与式

平成18年度 大学院薬学研究科 博士前期課程(修士課程)入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 16名(臨床薬学コースを含む)

出願期間 平成17年6月20日(月)～6月24日(金)

面接試験 7月4日(月)

合格発表 7月12日(火)

志願者 13名〔男子2名, 女子11名〕
うち、臨床薬学コース 3名〔男子0名,
女子3名〕

受験者 13名〔男子2名, 女子11名〕
うち、臨床薬学コース 3名〔男子0名,
女子3名〕

合格者 13名〔男子2名, 女子11名〕
うち、臨床薬学コース 3名〔男子0名,
女子3名〕

(一般入試1次)

募集人員 24名(臨床薬学コースを含む)

出願期間 平成17年7月19日(火)～7月29日(金)

学力試験 8月19日(金)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
(臨床薬学コース希望者および他大学出身者
のみ面接試験)

合格発表 8月30日(火)

志願者 80名〔男子44名, 女子36名〕
うち、臨床薬学コース 12名〔男子4名,
女子8名〕

受験者 76名〔男子41名, 女子35名〕
うち、臨床薬学コース 12名〔男子4名,
女子8名〕

合格者 55名〔男子28名, 女子27名〕
うち、臨床薬学コース 10名〔男子3名,
女子7名〕

(一般入試2次)

募集人員 若干名(臨床薬学コースを含む)

出願期間 平成17年10月3日(月)～10月7日(金)

学力試験 10月14日(金)〔外国語科目(英語), 専門科目〕
(臨床薬学コース希望者および他大学出身者
のみ面接試験)

合格発表 10月21日(金)

志願者 16名〔男子11名, 女子5名〕
うち、臨床薬学コース 1名〔男子1名,
女子0名〕

受験者 16名〔男子11名, 女子5名〕
うち、臨床薬学コース 1名〔男子1名,
女子0名〕

合格者 14名〔男子9名, 女子5名〕
うち、臨床薬学コース 1名〔男子1名,
女子0名〕

学位授与

[博士]

論博第41号 博士(薬学) 幸田 祐佳
薬物性急性腎不全におけるフリーラジカル産生と
細胞内シグナル伝達分子の役割に関する研究
(平成17年7月25日付)

[学士]

学士(薬学) 薬学科 6名 製薬学科 30名
男子 14名 女子 22名 合計 36名
(平成17年9月30日付)

学士(薬学) 薬学科 2名 製薬学科 1名
男子 2名 女子 1名 合計 3名
(平成17年12月31日付)

学生課だより

●自動車・単車(原付を含む)通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣住民への迷惑防止、構内での交通安全の確保と学園内の環境保全のため、自動車・単車(原付を含む)での入構は原則として禁止しています。

しかしながら、無許可での構内への乗り入れや近隣路上において迷惑駐車をする学生が後を絶ちません。利便性から「自分一人ぐらいはいいのでは」「少しの時間ならいいのでは」という安易な考えが、周囲の人たちにとっては大きな迷惑となっています。また、無許可での単車の乗り入れの増加やマナーの低下も目立ちます。加えて、構内および通学途中での交通事故も起きています。迷惑防止、そして自分自身の安全のためにも、通学にはバス等の公共交通機関を利用するようにしてください。

●大学等の名前をかたった電話について

最近、大学関係者や学生課職員の名前をかたり、自宅への電話を通じて、住所や携帯電話の番号を聞き出す被害に遭ったという事例が発生しています。大学から直接、電話で住所や携帯電話の番号を聞くことはありません。不審な電話にはくれぐれも注意してください。

<保健室だより>

～心電図検査について～

心臓は全身血液循環の中心臓器で、『心筋』と呼ばれる筋肉からできており、握りこぶし大で重さは成人で約300gです。個人で意思で心臓の動きを止められないのは、また、緊張した時に鼓動が激しくなるのは『心筋』が不随意筋で自律神経系に支配されているからなのです。心筋収縮時に微細な電氣的刺激伝導を規則的に繰り返して、心臓は動きます。この電氣的刺激伝導を波形グラフ化したものが、心電図です。

心電図によって、次のことが分かります。

- ①心筋の収縮・拡張の規則性の有無
- ②心筋に栄養・酸素を送っている冠状動脈の狭窄の有無
- ③心筋の病変の有無

心電図検査は波形だけから判読しますので、多くの診断名があります。これはあくまでも心筋の電氣的刺激伝導系の変化に対するものであって、病名ではありません。心疾患の診断・状態把握等の情報には役立ちますが、確定診断を行うことはできません。

参考資料

- * 医学大辞典(南山堂)
- * 図解 心電図テキスト(文光堂)

保健室 辻 悦子

奨学生状況

1. 日本学生支援機構

平成17年10月1日現在

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計
第一種	38	35	58	23	21	175
月額	自宅 54,000円	53,000円	53,000円	51,000円	88,000~	
	自宅外 64,000円	63,000円	63,000円	61,000円	122,000円	
第二種	76	72	60	65	15	288
月額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合計	114	107	118	88	36	463

2. その他の育英・奨学会

区分	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計	給付・貸与
(財)岡山県育英会	51,000	0	0	1	0	-	1	貸与
(財)山口県ひとつくり財団	52,000	0	0	1	0	-	1	貸与
(財)小野奨学会	学部 30,000 大学院 60,000	1	1	1	1	3	7	給付
(財)河内奨学財団	40,000	0	1	0	0	-	1	給付
(財)佐藤奨学会	19,500	0	0	1	0	-	1	給付
(財)森下仁丹奨学会	30,000	-	-	-	-	1	1	給付
公益信託鈴木万平記念薬学奨学基金	50,000	0	0	0	1	0	1	給付
大阪薬科大学一般奨学金	学部 50,000 大学院 60,000	10	2	0	0	2	14	貸与 (一部給付)
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000	1	0	3	1	1	6	貸与
合計		12	4	7	3	7	33	

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成17年度）

◆ 関西薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	予選敗退
	女子	Aチーム 4位 4位：速水①
	新人戦	3位
硬 式 庭 球 部	男子	3位
	女子	1位 シングルス/2位：松田③
硬 式 野 球 部		2位
サ ッ カ ー 部		2位
柔 道 部	男子	1位 2位：宇野②
	女子	1位：時吉② 2位：藤田③
ソフトテニス部	男子	5位
	女子	8位
卓 球 部	男子	決勝トーナメント敗退
バスケットボール部	男子	9位
	女子	7位
バドミントン部	男子	10位
	女子	2位 シングルス/3位：田中③、ダブルス/3位：田中③、河前② 新人戦/1位：村岡①
バレーボール部	男子	2位
	女子	5位
陸 上 競 技 部	総合	4位（男子4位、女子3位）
	男子	トラック フィールド 1500m/2位：吉田② 走り高跳び/2位：片桐②
	女子	トラック フィールド 100m×4リレー/3位：奥村③・楠本③・井上②・宇埜② 100m/3位：楠本③、400m/3位：初瀬② やり投げ/1位：林②、走り高跳び/1位：初瀬② 走り幅跳び/2位：宇埜②

注) ○内は学年

◆ 全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子	ベスト8
	女子	ベスト8 3位：福島②
ソフトテニス部	男子	3位
	女子	予選敗退
卓 球 部	男子	予選敗退
バスケットボール部	男子	ベスト8
	女子	予選敗退

注) ○内は学年

入試・広報課だより

オープンキャンパス2005を終えて

本年度のオープンキャンパスは、8月5日(金)、7日(日)、18日(木)の3日間開催し、参加者は延べ約740名でした。

当日は、まずビデオにより、本学の概要を紹介し、続いて矢中原学長から「薬学教育新制度と本学の対応」、辻坊入試副委員長から「平成18年度入試概要」、田中就職部長から「進路(就職・大学院進学)状況」などについて説明がありました。また、「模擬実験」(見学と体験)として、情報科学演習室ではコンピュータグラフィックスの体験を兼ね蛋白質について学び、電子顕微鏡室ではミクロの世界を堪能し、調剤実習室では散剤の模擬調剤と軟膏剤の調製を行いました。参加者へのアンケートによると「実験の説明が詳しく良かった」「実験が面白かった」などとともに、「調剤実習の参加定員をもう少し増やしてほしい」との要望がありました。また、全体的には大変好評でした。

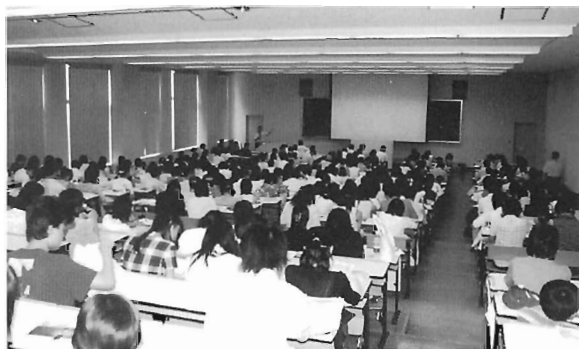
さらに、「学内見学」においては、参加者の好みに合わせて見学形態(①本学学生の案内によるグループ見学、②個別見学)を選択することができることとし、グループ見学を選択した参加者には、日頃、本学学生が利用する施設〔図書館、学生会館、体育館、薬用植物園のほか、研究室(2~6階を全面開放)〕を中心に案内しました。参加者からは、「年齢が比較的近くて親しみやすく、また、学生の『生の声』が聞けて良かった」「ますます自分が入学したい大学であると感じた」との感想が寄せられました。

なお、「個別相談」では、AO入試(A方式)、公募制推薦入試(S方式)に加えて、平成18年度からの薬学教育6年制実施に関する質問が多数を占めました。参加者からは「全体説明では、よく分からなかったことについて、懇切丁寧にお願いいただき、納得できた」「薬学科(6年制)、薬科学科(4年制)への学科配属が4年次進級時に行われる制度について詳しく説明していただけてよく分かった」との高い評価を得ることができました。

来年度オープンキャンパスも、その内容をより一層充実させて薬学および本学の魅力をアピールしていきたいと思えます。



大学資料配付



進学説明風景



個別相談

高校訪問を実施しました

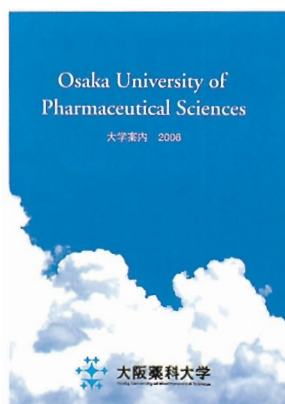
ここ数年、高校生の資格取得志向による薬学(部)人気にも支えられ、本学は順調に志願者が増加してきましたが、平成17年度入試では、全入試方式を合わせた延べ志願者が、昨年度に比べ約17.7%減少しました。これは、大学受験者(18歳)人口の減少に加えて、平成18年度より実施される薬学教育6年制ならびに相次ぐ薬系大学の新增設などの様々な要因によるものと思われます。また、2、3の大手予備校の平成18年度薬学部志願者調査によると、他の理学系学部は前年度並みを維持しているにもかかわらず、薬学部のみ約25%程度減少するとの分析予測データもあります。

これらを踏まえた対応として「薬学の魅力」ならびに「薬学教育新制度と本学の対応」についてアピールするため、入試委員および入試・広報課員による高校訪問(訪問期間:平成17年9月5日~10月4日)を実施し、近畿、中国、四国地区の高校(計83校)を訪問しました。

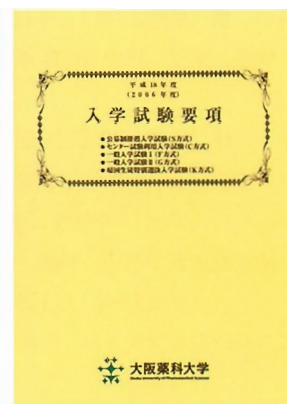
平成18年度学生募集を開始しました

本学では、平成18年度からの薬学教育6年制に伴う「収容定員の増加に係る学則の変更」を文部科学省に申請していましたが、平成17年9月30日付で認可されました。

これを受け、平成18年度学生募集要項〔AO入試（A方式）、公募制推薦入試（S方式）、一般入試（C・F・G方式）等〕の配付を開始しました。なお、学生募集は学部（入学定員300名）〔本学は、6年制課程の薬学科（270名）と4年制課程の薬科学科（30名）を併置します〕として行い、学科への配属は、4年次に進級する際に学生の希望等により決定します。



大学案内2006



平成18年度 入学試験要項

図書課だより

◆ 開館時間の延長について

図書館では、長年の懸念であった開館時間の延長（月～金曜日：2時間等）を9月1日から実施しています。大いにご活用ください。

開館時間（1）試験の期間

月～金曜日：午前9時から午後8時まで
土曜日：午前10時から午後6時まで

（2）試験の期間以外

月～金曜日：午前9時から午後8時まで
土曜日：午前10時から午後4時30分まで

（3）試験の期間とは、次の期間をいう。

- ア. 定期試験および再試験の1週間前から終了日前日まで
- イ. 1月始業日から薬剤師国家試験終了日前日まで
- ウ. 図書委員会が定めた期間

図書館のカウンター業務は、月～金曜日の午後5時から8時までは、大学院学生2名のアルバイトで対応しています。また、土曜日は、従来からの派遣社員1名にシルバー人材センターからの派遣社員1名を加えて対応しています。

◆ 資料室保管用の学内資料の収集について

昨年、本学は創立100周年を迎え、その記念事業の一環として資料室が整備されました。しかし、本格的な資料の収集はこれからです。教職員各位におかれましては、本学の主要な大学行事にかかわる資料や、歴史的に重要な教育・研究にかかわる書類・規程集など、資料室に寄贈または寄託して頂けるものがありましたら、是非ご提供頂きたいお願い致します。詳しくは、各教職員・学内各部署にご案内を配付していますのでご覧ください。

（提出先：図書課）



資料展示室

総務課だより

■ 人 事

<大学関係>

任 用 (平成17年12月16日付)

学長 栗原 拓史 (任期4年)

併 任 (平成17年8月29日付)

大学院博士前期課程指導教員 幸田 祐佳 (助手)

(平成17年9月1日付)

防火管理者 石田 寿昌 (教授)

(平成18年1月1日付)

共同研究センター長 千熊 正彦 (教授)

退 任 (平成17年8月31日付)

栗原 拓史 (防火管理者)

(平成17年12月15日付)

矢内原 千鶴子 (学長・任期満了)

配置換え (平成17年6月1日付)

春沢 信哉 助教授

箕浦 理佐 助手

(総合薬学系機能分子科学部門

(薬品合成化学研究室))

名誉教授 (平成17年4月1日付)

稲森 善彦

非常勤講師 (平成17年9月15日付)

斎藤 武 (数学2)

田口 侑男 (数学2)

中塚 宗次 (薬事関連法・制度)

中村 恵 (ドイツ語3、人間と文化5b、洋書講読ゼミ2)

樋口 久 (英語2)

藤田 義孝 (フランス語3、洋書講読ゼミ2)

榎矢 桂一 (人間と文化2、ドイツ語3、洋書講読ゼミ2)

森山 健三 (東洋医学概論)

山元 弘 (免疫学)

Joseph Michael Jacobs (英語4)

Judith Lynn Ritter (英語4)

Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ2)

(平成17年11月1日付)

荒川 行生

恩田 光子

〔平成18年度カリキュラム
(薬学共用試験演習)
(臨床導入実習)の事前準備〕

客員研究員 (平成17年9月1日付)

景山 正明

(平成17年10月1日付)

内田 武

(平成17年11月1日付)

河野 龍而

<法人関係>

評議員退任 (平成17年10月25日付)

左右田 隆

評議員就任 (平成17年11月1日付)

大川 滋紀

理事退任 (平成17年11月29日付)

岡田 健治

理事長退任 (平成17年12月16日付)

川島 康生

理事長就任 (平成17年12月16日付)

矢内原 千鶴子

■ 9月学位記授与式

平成17年9月26日(月)午前10時30分より大会議室において、平成17年9月学位記授与式(学部36名)が挙行されました。



■ 海外出張

千熊 正彦 教授 (生体分析化学教室)

<出張期間:平成17年7月30日~8月7日>

第12回国際生物無機化学会議 (ミシガン、アメリカ)

友尾 幸司 講師 (薬品物理化学教室)

伊 康子 助手 (薬品物理化学教室)

<出張期間:平成17年8月23日~9月1日>

第20回国際結晶学会議 (フローレンス、イタリア)

松村 靖夫 教授 (病態分子薬理学研究室)
高岡 昌徳 助教授 (病態分子薬理学研究室)
<出張期間:平成17年9月11日~9月17日>
第9回国際エンドセリン会議 (ソルトレイクシティ、アメリカ)

掛見 正郎 教授 (薬剤学教室)
<出張期間:平成17年10月21日~10月28日>
岩永 一範 助手 (薬剤学教室)
宮崎 誠 助手 (薬剤学教室)
<出張期間:平成17年10月21日~10月29日>
第20回日本薬物動態学会・総会-ISSX合同学会
(マウイ、アメリカ)

田中 一彦 教授 (臨床薬剤学教室)
加藤 隆児 教務職員 (臨床薬剤学教室)
<出張期間:平成17年10月23日~10月29日>
2005マウイJSSX-ISSX合同学会 (マウイ、アメリカ)

■ 海外留学

宇佐美 吉英 助手 (有機分子機能化学研究室)
<留学期間:平成17年10月1日~平成18年9月30日>
ノースカロライナ大学 (アメリカ)

谷口 雅彦 講師 (生薬科学教室) <留学期間延長>
平成16年10月1日~平成17年9月30日を平成16年
10月1日~平成17年12月31日に変更
ノースカロライナ大学 (アメリカ)

■ 名誉教授称号授与式

平成17年9月29日(木)午前9時より大会議室において、
稲森善彦元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式
が挙行されました。

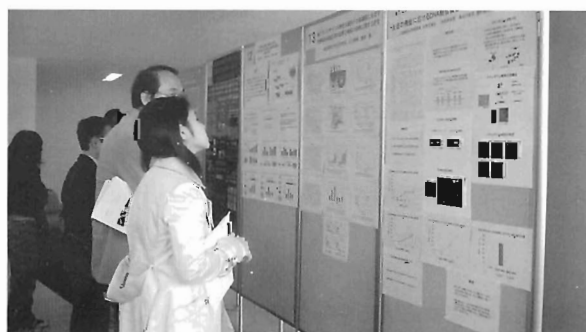


■ 大阪薬科大学 ハイテク・リサーチ・センター

平成17年度公開シンポジウム

平成17年12月3日(土)午後1時より、本学において、
大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター平成17年度公
開シンポジウム「DNA・RNA結合分子を標的とした疾
病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発
への応用」が下記のプログラムにて開催されました。途中、
ポスターセッションもあり、盛況裏に終了しました。

1. 演 題 「体内時計の分子機構に基づいたガン時間化学療法」
演 者 九州大学大学院薬学研究院
助教授 小柳 悟
2. 演 題 「薬物動態解析に基づく抗がん薬の最適投与計画」
演 者 大阪薬科大学薬剤学教室
教 授 掛見 正郎
3. 演 題 「自然免疫による生体防御機構と毒ヘビの自己防御機構」
演 者 大阪薬科大学生化学教室
助教授 井上 晴嗣
4. 演 題 「ショウジョウバエにおけるRNA silencingの分子メカニズム」
演 者 徳島大学ゲノム機能研究センター
助教授 塩見 美壽子



■ 実験動物慰霊祭

平成17年12月7日(水)午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われました。



就職課だより

進路・就職支援 ～個人面談の充実～

昨年6月に実施した本学卒業3年後の就職動向アンケート調査結果によると、本学卒業生は卒業後の3年間で30%近くが転職・退職していることが明らかになりました。これは全国大学新卒者の3年後の動向に類似しています。アンケート結果では、卒業後、保険調剤薬局・ドラッグストアでスタートし転職したものが最も多く、次いで病院という結果が出ました。転職理由としては、給与等の待遇、評価制度、人間関係が最も多くなっていました。本年も9月から10月にかけて同様の調査を実施し、現在、内容を分析中です。

本学就職部委員会・就職課では、就職先でのミスマッチを防ぐために、各委員・課員と学生との個人面談の充実に取り組んでいます。就職部委員による3年次生全員に対する個人面談や就職課員と学生とのマンツーマンでの職種別個人面談を多数実施しています。昨年度の就職課員と学生との個人面談は、延べ501回(学部学生431回・大学院学生70回)実施しました。就職課員との職種別面談状況を分析してみると、学部学生では431回中、企業を希望する者が245回(56.8%)と最も多く、次いで病院76回(17.6%)、保険薬局・ドラッグストア41回(9.5%)、公務員27回(6.3%)、その他(進学や病院研修生等)の順になりました。企業志

■ 大阪薬科大学同窓会よりの寄付

- 次のとおり大阪薬科大学同窓会より、寄付がありました。
- ・20万円 第19回市民講座(H17.5.28) 協賛金(共催)
 - ・20万円 第20回市民講座(H17.10.22) 協賛金(共催)
 - ・25万円 第39回公開教育講座(H17.5.21) 協賛金(後援)
 - ・25万円 第40回公開教育講座(H17.7.16) 協賛金(後援)
 - ・25万円 第41回公開教育講座(H17.11.26) 協賛金(後援)
 - ・50万円 平成17年度大阪薬科大学同窓会研究助成金
宮本 勝城(微生物学教室 講師)
研究題目「海洋細菌のキチン分解系における2成分制御系タンパク質の役割」

望者での相談では、MR職が72%と最も多く、次いで研究・開発職、CRO(医薬品開発業務受託機関)・SMO(治験実施施設管理機関)の順になりました。職種や企業選択等においては、学生個々の適性や価値観、ニーズに応じて決定するよう指導しています。同様に大学院学生では、70回中、企業志望者との面談が51回(72.9%)、次いで病院10回(14.3%)、公務員8回(11.4%)、その他(病院研修生等)の順になりました。企業志望者では、研究・開発等の相談が84.3%と圧倒的に多く、学部学生とは大きく相違していました。

本年度は昨年度以上にさらに学生の相談が増加し、学生の進路・就職への関心の高さが伺われます。就職課員と学生との個人面談は、10月末日現在で延べ399回(学部学生314回・大学院学生85回)となりました。これらを受けて当課では、学生に対してより質が高く、的確なアドバイスができるよう、課員全員がスキルアップに努めています。

薬学教育6年制のスタートや薬学部新設の増加、保険調剤薬局・ドラッグストア等での求人数の変化等、薬剤師を取り巻く環境は刻一刻と変化しています。学生の就職観の多様化、価値観の変化を正確に受け止め、進路指導・支援を的確かつ迅速に対応することがますます重要となってきています。今後さらに個人面談を充実させ、学生一人ひとりの価値観にあった進路・就職支援を強化させていく所存です。

「学内企業セミナー」を開催しました

去る11月29日（火）および12月20日（火）の2日にわたり、本学学生の主な就職先である薬局・ドラッグストアおよび薬業関連企業のご協力を得て、「学内企業セミナー」を開催しました。

これは、これから就職活動を始めようとする3年次生および大学院修士課程1年次生を対象とし、就職希望先の業務や雇用条件、採用試験等について必要な情報を収集するとともに、各社の人事担当者の方と自由に何でも相談できる場を提供することを目的としており、学生にとっては、効率的な就職活動を展開できる場でもあります。

1回目（11月29日）は、主に薬局・ドラッグストアを中心に50社、2回目（12月20日）は薬業関連企業42社にご参加いただきました。また、両日ともセミナー終了後、本学学生会館の喫茶において参加企業の人事担当者と本学教員による懇親会（名刺交換会）を開催し、学生のみならず、大学側としても、最新就職情報収集の貴重な場となりました。



学内企業セミナー



懇談会（名刺交換会）

経理課だより

平成18年度 納付金一覧

[薬学科（6年制課程）・薬科学科（4年制課程） 共通]

区 分	初 年 度		
	前 期	後 期	計
入 学 金	400,000円	—	400,000円
学 費	授 業 料	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	600,000円
計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円

*薬学科（6年制課程）では、5年次以降、実習費を徴収することがあります。

*校友会および育友会から徴収を委託されている納付金として、校友会入会金1,000円（初年度のみ）、校友会費5,000円および育友会費18,000円があります。

なお、校友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の保護者で構成される団体です。

薬用植物の紹介

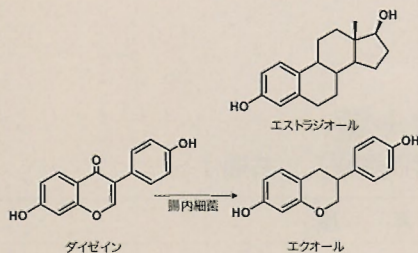
クズ *Pueraria lobata* OHWI

クズ（マメ科）は、北海道から九州および朝鮮半島、中国ほか、東アジアの温帯地方に分布する大型つる性の木本植物である。山野、向陽の土手など至る所に見られ、また鉄道沿線の斜面にもたくさん植えられている（現在は野生化している）。猛烈な繁殖力で樹木にまわりついて弱らせてしまうこともあり、雑草として敬遠されたりする。茎は基部が木質で著しく伸張し、長さは10メートルにも達する。葉は互生し、3出羽状複葉で、頂小葉は菱状円形である。7～9月に紅紫色花を総状花序に密生する。クズという植物名は、大和の国栖（くず）の人が根から取ったデンプンを「国栖粉」と名付け諸国に売り歩いたことに由来すると言う。日本では「くずのね」と呼ばれ飛鳥時代以前から、食用、薬用とされた。奈良の吉野葛は有名で、これを用いた葛餅、葛湯、葛ひき、葛きりなどがあるが、現在は、サツマイモデンプン等が多量に添加されたものが一般に出回っている。このクズの根の周皮（コルク層）を除いたものが、生薬の葛根（*Puerariae Radix*）で、晩秋に貯蔵根を堀上げ、コルク層を除いて、縦割りにしたり、さいころ状に切り、日干しにして作る。葛根は中国の古典である「神農本草経」の中品に収載され「消渴・身大熱・嘔吐・諸痺を治し、陰気を起こし、諸毒を解す」と記されている。傷寒論の葛根湯は桂枝湯に葛根と麻黄が加わったものであるが、効能は葛根の薬能によるところが大きい。主として発汗、解熱、鎮痛の目的で、感冒、鼻かぜ、頭痛、肩こり、筋肉痛

などの治療に用いる。一方、花の蕾は生薬「葛花」と呼ばれ、酒の二日酔などに用いる。根の



成分としては、デンプンのほか、イソフラボン化合物のダイジン、ダイゼイン、プエラリンなどが含まれている。プエラリンには正常体温を下げないが、発熱ウサギの体温を低下させる作用がある。また、ダイゼインには、抗痙攣作用が認められ、ダイジン、ダイゼインにはcAMPホスホジエステラーゼ阻害作用がある。近年、中国で脳血管、冠状動脈の循環改善作用が報告され、その中でもプエラリンには血管内皮細胞に作用し、血小板凝集抑制作用や、血栓生成予防作用が認められている。近年、イソフラボン化合物には、アンドロゲンからエストロゲンに変換させるアロマトラーゼの阻害作用、アンドロゲンを生成する α -レダクターゼの抑制作用などが報告されている。これらの作用はイソフラボン骨格がエストロゲンに似た骨格を持つことによる。ダイゼインは腸内細菌によりエクオールに分解されるが、エクオールはほかのイソフラボンよりエストロゲン作用が強く、さらに半減期も長い。ラット、ウサギ、サルなどはダイゼインをすべてエクオールに分解するが、日本人では約半数、欧米人では3分の1以下しか分解菌を持たないという。この女性ホルモン様作用を強調したサプリメントにプエラリアがある。これはクズと近縁である*Pueraria mirifica*の根を材料としている。*Pueraria mirifica*はタイ国で民間薬（ガウ・クルア・ディーン）として豊胸、採乳の目的で用いられているが、同属植物が、古くから国により異なる目的で使われてきたことは、興味深いことである。



（薬用植物園長 馬場 きみ江）

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)
FAX (072) 690-1018(")
URL <http://www.oups.ac.jp/>